

## 第2章 調査研究結果を受けての提言ならびに方策

### 提言1 次代を担う青少年の、今の「出会い」を大切にしよう

#### 現状と課題〔調査研究の結果から〕

- ◇中学生と青少年は、今後参加してみたいと思う地域活動で、お楽しみ会やレクリエーションなど、地域の住民どうしが交流できる行事に参加してみたいと考えている。【2-6】p20
- ◇多くの地域団体がさまざまな世代が交流できる機会を望んでいる。【4-2】p31
- ◇中学生から寄せられた地域活動のアイデアの中に、多くの世代との交流についての考えが多く見られた。【6-1】p38
- ◇保護者は、青少年が地域での行事や活動に参加するためには「ともに地域で活動する仲間と出会えること」「地域の大人と青少年がかかわれる機会があること」が大切であると考えている。【3-5】p29
- ◇壬生高校の1年生は、今後の地域活動に友だちといっしょなら興味や関心のあることに取り組んでみようと思っている生徒が多い。【2-5】p18
- ◆多くの地域団体がさまざまな世代の交流を望んでいるが、実際に中学生や青少年への呼びかけが行われていない現状がある。【4-3】p32
- ◆半数以上の保護者が地域活動への参加が1回程度、またはまったくしていない。【3-4】p28
- ◆子どもから高齢者までが集い地域懇談会を実施している自治会は4団体しかない。【4-6】p35

「そのときの出逢いが 人生を根底から変えることがある よき出逢いを」相田みつを氏の言葉である。壬生町社会教育委員の会議では、今回の調査の結果を受けて提言1に「出会い」というキーワードを設定した。

世代をこえた交流は、互いを育てるひとつづくりの場となる。今回の調査研究をとおして、自治会や保護者などの大人はもちろんのこと、中学生や高校生などの青少年も、さまざまな世代での交流の機会を望んでいるということが明らかになった。青少年にとっては、地域の大人との出会いや交流をとおして、自分を成長させたり、自己有用感を育てていったりしていることが1-1の調査結果からも明らかになっている。また、地域の大人にとっては、青少年との出会いが、青少年とどうかかわり、励まし、勇気づけていくかという大人のかかわり力を向上させるよい機会となる。

しかし、保護者や地域の大人たちは、さまざまな世代との交流を望んでいるにもかかわらず、自らが地域の活動に参加していなかったり、青少年に向けて参加の呼びかけを行っていなかったりする事実も明らかになった。保護者は自分の子に地域活動に参加してほしいと望んでいるが、半数以上の保護者が地域活動に参加しても1回程度以下であり、参加の理由も自治会や育成会の役員だったり、当番だったりしていることが分かった。

地域活動は青少年の心の成長に効果をもたらしているという結果から、さまざまな世代の人との交流が次代を担う青少年には有効であると考えられる。また、多くの地域の大人が世代をこえた交流を望んでいる。「いっつどこでだれとだれがどんな出逢いをするか それが大事なんだなあ」という相田みつを氏の言葉にあるように、次代を担う青少年同士の出会い、次代を担う青少年と地域の大人との出会いを大切にしていきたい。

## 方策 1 - 1

地域活動に関心のある中学生と青少年の交流がはかれる機会を提供する。

地域活動に関心のある中学生と青少年の出会いは、将来ともに手を携えてまちづくりに励むことになるであろうパートナーとの出会いにつながる。中学生は中学生、中学を卒業した青少年は青少年として独自の活動を行うのではなく、同じ地域活動に両者が集い、刺激し合いながら取り組めるような機会を設けるようにする。

今年の地域活動の中で中学校を卒業した青少年と中学生とが出会い、ともに活動する機会があった。みぶっ子ドキドキサマーキャンプと壬生ふるさとまつりの時である。青少年は大人と中学生をつなぐパイプ役になったり、これまでの自分の経験を中学生に伝えるアドバイザーになったりして活躍した。なによりも、中学生たちとともに活動することを楽しんでいるようだった。青少年にとっても中学生にとっても、年齢の壁を取り払った交流は有意義なものとなっていると感じることができた。

そこで、中学校卒業後の青少年の地域活動に先駆けて実施されている中学生地域活動推進事業で、中学生に活躍の機会を提供してくれている団体に青少年の活動の機会の提供を呼びかけ、中学生と青少年の出会いの場が設けられるようにする。この時、受け入れる団体にとっても、参加する中学生や青少年にとってもそれぞれがプラスに刺激し合えるよう、活動の機会を検討したり、啓発したりしていく必要がある。

## 方策 1 - 2

次代の壬生町を考える地域活動の輪が広がるよう、サポート体制を整備する。

次代の壬生町を担う青少年を支えるためには地域の大人の力が不可欠である。そこで、地域活動に熱心に取り組んでいる青少年や中学生と、活動の機会を提供してくれた団体に所属する大人との出会いの場を設け、顔を合わせた交流ができるようにする。交流会をとおしての青少年と地域の大人の出会いは、互いが顔見知りになれば、青少年にとってより身近な地域での活動や行事に取り組みやすい状況を準備することにもなる。

また、このような直接顔を合わせることができる出会いは、SNS等を利用した顔を合わせない出会いは決して感じ取ることができない安心感を生み出す。この安心感が、青少年がのびのびと地域活動に取り組み、青少年と地域の大人が一体となった地域活動の輪を広げていくためには大切なことだと考える。地域活動に参加してくる青少年が、「自分はこの大人たちに支えられているんだ」と感じられるような心のサポートを整備することは、地域活動を活発にしていけるためには必要なことであろう。

### 方策 1-3

継続した関係がもてるような出会いの場を設定する。

これまでの地域活動の様子を見てみると、地域の大人との関係が、その日だけ、その行事だけのもので終わりになってしまっている現状がある。確かに、短時間での関係の中から、子どもたちは地域の大人からあたたかな言葉をかけてもらい誰かの役に立つ喜びを感じ取り、地域の大人たちも子どもたちのさわやかな頑張りから元気もらっている。この良好な関係が継続してもてれば、青少年はさらに大きな成功体験を味わうことができるようになるであろうし、大人は青少年をくりかえしサポートすることによって、かかわり力を高めることができるであろう。

また、継続したつながりは互いを理解することにもつながるとともに、まちづくりや地域での行事のよさやノウハウを伝える機会にもなり得る。そこで、町や既存の団体が行う行事に、青少年が企画段階から取り組み、実際に運営できる場を提供してもらえよう呼びかけ、一つの活動や行事の中で、数回にわたり関係がもてるようにしていくことが望まれる。

### 方策 1-4

さまざまな世代が交流できる地域懇談会の開催を自治会に呼びかける。

今夏開催された自治会の青少年健全育成地域懇談会に参加する機会があった。未就学児からご高齢の方まで一堂に集った懇談会で、部屋の中はあたたかな雰囲気包まれていた。参加したご高齢の方から「こんなに近くに、こんないい子がいたなんて知らなかった」という言葉をいただいた。身近な地域の中に住んでいても、なかなか世代をこえた交流がないことを表す言葉だと感じた。

小学生たちは普段話している声の大きさと高齢者は聞き取りにくいことをその場で感じ、耳元に顔を近づけ大きな声で話をしている姿が見られ、それに対して、高齢者はうんうんとうなずきながら笑顔で聞いている。さまざまな世代の人と人が出会うことで、自然に生まれるあたたかさがあつた。

しかし、その空間には、青少年や中学生、そしてその保護者たちの姿はなかった。幼児からご高齢の方までの集まりの中で、その2つの世代の人がぼっかり抜けていたのが現実だった。子どもからご高齢の方までが集うことを大切にしている自治会であっても、青少年や中学生の姿が見られないのである。

そこで、現在さまざまな世代が集まり地域懇談会を実施している自治会を中心に、青少年や中学生も参加できるような地域懇談会を開催できるよう呼びかけることが大切であると考えます。また、壬生町青少年健全育成実施委員会と連携を図り、青少年健全育成地域懇談会を開催する自治会が増えるように啓発を行ってきたい。

### 現状と課題〔調査研究の結果から〕

- ◇ 6割を超える中学生，5割を超える高校生が，地域活動に対して興味や関心をもっている。  
【2-1】 p13
- ◇ 2年前と比較して，地域活動に取り組んでいる中学生が増えている。【2-2】 p15
- ◇ 9割を超える保護者が，現在推進されている中学生の地域活動を好意的に受けとめ，自分の子を地域活動に参加させたいと考えている。【3-1】 p22 【3-2】 p24
- ◇ 「子どもが小さな頃から地域の活動や行事に参加できる機会を設けていくこと」「地域で子どもや青少年を育てていくという考えを広めていくこと」が，今後青少年が地域で活動するのに大切であると考えている保護者が多い。【3-5】 p29
- ◆ 地域活動に取り組んでいる中学生が増えている一方，それを支える地域の大人の数が少ない。  
【3-4】 p28 【4-3】 p32
- ◆ 「中学生による地域活動の推進」の意義をよく知っている自治会長は14.8%，ボランティア団体および社会教育団体の代表で33.3%である。【4-1】 p30
- ◆ 中学校を卒業すると，地域活動への参加率がかなり低下する。【2-3】 p16
- ◆ 高校生も中学生の時には地域活動に参加していた子がかなりいる。【2-4】 p17
- ◆ 高校生の保護者は中学生の保護者と比べて，地域活動への参加率が低い。【3-4】 p28
- ◆ 今後，青少年が地域で活動するために「地域の大人がもっと積極的に地域の行事にかかわる」「自治会や育成会の活動をもっと活発にする」ことが必要だと考えている保護者があまり多くない。  
【3-5】 p29
- ◆ さまざまな内容の地域活動に中学生や青少年は興味や関心をもっている一方，自治会の行事への参加には内容に偏りが見られる。【4-5】 p34

青少年による地域活動で大切なのは「支えあい」であろう。地域活動に顔を出した青少年にとって，何よりも励みになるのは地域の大人からのあたたかな言葉かけによる支えである。特に初めて地域活動に臨む青少年は，誰かの役に立ちたいと思いつつも，慣れない活動に不安を抱えているはずである。そのような気持ちを解きほぐせるのは地域の大人のかかわりであるし，「壬生町に育ってよかった」「壬生町で学んでよかった」と思えるのも，あたたかな地域の大人の存在であると考えられる。また，地域の大人も青少年ががんばって地域活動に取り組む姿から，活動や行事への新たな取り組み意欲をもらっている事実が，「中学生による地域活動の推進」で大人から寄せられた感想で明らかになっている。

今回の調査の結果によると，現在推進中の「中学生による地域活動」に対して多くの保護者が理解を示してくれている。先行の「中学生による地域活動の推進」が，青少年の地域活動の受け皿となる大人の意識を高めていることが推測される。「中学校卒業後の青少年による地域活動」の素地はできていると捉えてよい



だろう。また、地域活動に取り組む中学生の数も増加し、地域活動に興味や関心をもつ青少年と中学生の割合も半数を超えている。

一方で、今回の調査により、問題点も明らかになった。

まずは、青少年の地域活動を支えるための地域の大人の数の不足である。直接、地域活動に臨む子をもつ保護者は中学生や青少年が地域活動に取り組むことをよいことだと思っている割合が増加しているが、間接的に中学生の地域活動を知る自治会やボランティア団体・社会教育団体の大人は、中学生が地域活動に取り組んでいる事実を知らない人が多いという問題がある。中学生や青少年による地域活動をよいことだと思っている保護者が増え、参加する子どもの数が増えているのに、その意義を知り支えようとする地域の大人の存在が少ないように感じる。限られた小数の団体が、徐々に増えている地域活動に臨む子どもたちを支えている状況である。このままでは、分子の数が増えているのに分母の数が増えず、一人が支える青少年が多くなっていくことが懸念される。これでは、青少年一人一人と地域の大人とのかかわりの時間が減ってってしまうことになるであろう。

次に、中学校卒業後の青少年が参加できる機会の不足である。中学3年生までは地域活動に参加していた子が結構な割合で存在しているにもかかわらず、卒業すると大幅に減少している。地域活動に興味や関心をもっている高校生が半数の割合でいるにもかかわらず、その興味や関心に応えられるだけの環境が整っていないことが原因であると考えられる。中学生までは環境を整備したが、その後は環境を整備しないでは、次代の壬生町を担う青少年を育成していくことにはつながらない。中学校卒業後の青少年に活躍できる機会を準備することが必要であると考えられる。

さらに、「子どもが小さな頃から地域の活動や行事に参加できる機会を設けていくこと」「地域で子どもや青少年を育てていくという考えを広めていくこと」が、今後青少年が地域で活動するのに大切であると考えている保護者が多いにもかかわらず、「地域の大人がもっと積極的に地域の行事にかかわる」「自治会や育成会の活動をもっと活発にする」ことが大切だと考えている保護者はそれほど多くない。「子どもには地域での活動に取り組んで育てほしい、でも、それを支えるのは地域の他の大人に任せます」といえるような結果である。また、自治会等の活動で青少年や中学生が参加している内容に偏りが見られる事実もわかった。これでは、いろいろな内容の地域活動に興味や関心を示している青少年や中学生のニーズに応えられないと予想される。

そこで、地域活動に取り組む誰かの役に立ちたいと考えている青少年を支えることができるための環境づくりについて、具体的に考えていくことが大切であると考えます。

#### 方策 2 - 1

支える大人が、地域活動に関心をもち、進んで参加できるよう呼びかけや啓発を行う。

青少年が地域に出て活動するためには、ともに取り組むパートナーとなる大人の存在が不可欠である。充実した地域活動になるためには地域の大人たちが、地域の活動に関心をもち、すすんで参加していることが必要である。そのためにも、なぜ今、青少年による地域活動なのかの意義やそれを支えるためには大人の協力が必要であることなどを地域に発信し、地域の大人が地域の行事に関心をもって自らの意志で参加してくるよう啓発を行う。

#### 方策 2-2

地域で行われている行事に青少年が携われるよう自治会にはたらきかける。

多くの自治会で青少年や中学生が活動に1回以上は参加していることが調査により分かった。そこで、偏った活動だけでなくさまざまな活動で機会を設け、さらに多くの青少年が興味のある活動に参加できるように呼びかける。さらに、その活動をとおして、地域の大人が助言者として力を発揮できるように、かわり方等についての啓発も行う。

#### 方策 2-3

地域の大人が地域の子どもを育てるという意識を高める。

町子ども会育成会連絡協議会が行う単位育成会長を集めての研修会で上記内容の講演会を行ったり、各自治会での地域懇談会の中で講話を行ったりして、地域の子どもを地域の大人があたたかく見守っていかうとする意識を高めていくようにする。

#### 方策 2-4

地域の伝統的な行事を大切にしていこうとする気持ちを世代をこえてもてるようにする。

青少年と中学生を対象とした、今後参加してみたいと思う地域活動についての調査の結果の中で、「町や地域に受け継がれている伝統的な祭りや行事」と回答している青少年や中学生の割合が高かったことや、自治会に対して青少年や中学生が参加した内容について調査した結果、「夏祭り、どんど焼きなど」と回答している割合が高かった。このことから、地域に伝わる伝統的な行事へ世代をこえた人々が参加することを通して、それらを伝え、受け継いで、今後も大切にしていこうとする気持ちを育てる。

#### 方策 2-5

幼児期から親子で地域の活動や行事に参加できる機会を増やす。

幼児期や小学生の時に見た地域に出て活躍する青少年や中学生の姿は、幼児や小学生がその後大きくなってから「自分もあんなお姉さんやお兄さんになりたい」とあこがれを抱かせるものになる。また、親にとっては、それを支える大人の大切さを学ぶよい機会になる。

また、保護者へのアンケートによると、青少年の地域活動を進めていくうえで、「子どもが小さな頃から地域の活動や行事に参加できる機会を設けていくこと」が大切だと考えている保護者が4割を超えていることが分かっている(3-5)。このことから、地域活動に対する一番の理解者であり、応援者でもある保護者の協力を得ながら、幼児期から親子で地域の活動や行事に参加できる機会を育成会や自治会で設けられるよう、はたらきかけていくことが必要であると判断できる。

#### 方策 2-6

青少年にとって一番身近な地域である「自治会」の機能を生かす。

青少年にとって一番身近な地域となる自治会の理解と協力があってこそ、日常の延長にある地域での活動や行事へ自然に青少年がかかわれるようになるのではないかと考える。自治会長への調査で、9割を超える自治会でさまざまな世代が交流する機会を望んでいることが分かった（4-2）。臨んでいることを実践にうつすことができるように、啓発を行っていく。

#### 方策 2-7

自治会長が集まる行政協力員会議で、青少年の地域参画を積極的に推進している自治会を紹介する。

方策の2-6とも関連することであるが、さまざまな世代との交流を考えていても、実際にどう呼びかけていったらよいか分からない自治会があるのも事実である。そこで、自治会長が一堂に集まる行政協力員会議（平成25年度は5月23日に開催）において、これまでの中学生による地域活動を積極的に推進してきた自治会や、これから青少年の地域参画に着手していく考えがまとまっている自治会に、事例を報告してもらい、多くの自治会が呼びかけの方法などを学べるような機会を設けることが必要であると考えます。

また、青少年や中学生の地域活動参画に積極的に取り組んでいる自治会を模範自治会として表彰するなどして、地域で青少年を育てようとする姿勢を讃えられるようにする。

#### 方策 2-8

社会教育委員が率先して、自分の所属する社会教育団体や地域団体の中で青少年の活動の機会を提供するよう努める。

壬生町社会教育委員の会議では、「自ら考え、自ら行動する社会教育委員」をスローガンに掲げている。そこで、社会教育委員には、自分にできる範囲で、無理のない程度に、自らが所属する社会教育団体や自治会、育成会等の地域団体において、青少年が活躍できる機会を提供できるようにしていくことが求められる。自らが青少年の地域活動の推進に取り組み、そこで見つけた成果や感じた課題などを社会教育委員の会議に持ち帰り、他の社会教育委員と共有したり、意見を交換したりしながら、よりよいものをつくっていくことが大切だと考える。はじめから100%を望むのではなく、一人一人の取り組みを社会教育委員のみんなで検討し、高めていくような取り組み方について話し合うことが「自ら考える」というところにつながるのではないだろうか。

また、社会教育委員の取り組みは、他の団体のモデルとなり得るものであろう。自らが取り組んでみて得ることができた成果や考えさせられた課題などを、社会教育委員という立場からまわりの団体に伝えていけるようになることが、青少年による地域活動を広めていくためには必要であると考えます。



#### 現状と課題〔調査研究の結果から〕

◇7割を超える中学生と高校生が、今後、機会があれば地域活動に参加してみようと思っている。

【2-5】p18

◇地域活動に参加したことのある中学生は2年前に比べて増加している。【2-2】p15

◇今後参加してみたいと思っている地域活動の内容はさまざま。【2-6】p20

◇地域活動に参加した中学生は、いろいろな面で参加してよかったと感じている。【1-2】p10

◇高校生は、学校を通じてプリントをもらったり、広報紙や回覧板を見たりすることが、地域活動の情報を得るのに便利であると考えている。【5-1】p36

◇地域活動に参加したことのある子をもつ保護者は、地域活動をとおしてわが子の態度や行動に変化があったと感じている。【3-3】p26

◆高校生は、町や教育委員会のホームページで地域活動の情報を得るのを便利であるとはあまり思っていない。【5-1】p36

◆自治会長、ボランティア団体および社会教育団体の代表者の16.7%が「中学生による地域活動の推進」について「知らない」と回答している。【4-1】p30

地域活動に対して興味や関心を抱いている青少年は半数の割合でいることや、今後、地域活動に参加する機会があったら取り組んでみようと思っている青少年も7割以上いることが調査によって明らかになった。彼らは、地域活動へ参加するための、何らかのきっかけを待っている状態であるといえるであろう。啐啄同時という言葉があるが、何か試みようと思っている若者にちょっとした促しを提供してあげられるのは大人の役割であると思う。

高校生は地域活動についての情報を得るのに便利だと考えているのは、学校を通じてプリントをもらうことや回覧板、広報誌を見ることだということがわかった。高校生になると携帯電話やパソコンなどのインターネットを利用した情報機器から情報を得ることを望んでいるのではないかという思い込みがあったが、意外にもそれを覆す結果となった。

地域活動の魅力を発信していく対象は、青少年だけでなく、保護者や地域の大人にも必要なことであることが分かった。より多くの地域活動に参加している子をもつ保護者は、自分の子が地域活動に参加してから態度や行動により変化が見られていると回答している。また、地域活動に取り組んだ中学生からは、地域の大人とかかわることで多くのことを学んでいる様子が、今回の調査やそれぞれの活動後のふりかえりに寄せられた感想から分かる。こういったよさを積極的に地域に発信していくことも大切である。

### 方策 3-1

さまざまな内容の地域活動を提供できるようにする。

青少年に今後参加してみたい地域活動の内容について調査を行ったところ、ボランティア活動や小さな子のためになる活動、文化・芸術・音楽に関することなど、さまざまな内容に興味や関心を示していることが分かった。「何か自分にできることは地域にあるのか?」「自分も誰かの役に立ってみたいけど…」という思いを抱いている青少年に、地域活動に魅力を感じ「よし、これならできる!自分にも。」というきっかけをつくることのできるような活動を準備し、その情報を提供できるようにしたい。

そのためにも、青少年を受け入れ、活動の中で青少年を育てていってくれることが期待できる、社会福祉協議会所属のボランティア団体、児童館、子育て支援グループ「ポケット」、夢壬隊、文化協会、町子連、学童保育、自治会等の団体へ協力を呼びかけていくことが必要である。

### 方策 3-2

地域の行事カレンダーを作成し、各家庭に配付する。

自治会長に青少年が参加可能な地域の行事や活動について調査を行ったところ、多くの自治会から回答があった。回答があった行事や活動をカレンダーにまとめて各家庭に配付し、青少年が自らの意志で行事や活動を選択し、参加を決めることのできる機会となるような情報を提供する。

ここでは、自治会長から回答があった青少年や中学生が参加できそうな活動や行事について、2つの自治会のものを例に掲載しておく。(回答があった他の自治会分は資料のページを参照)

| 自治会名 六美北部 青少年・中学生の参加は曜日による |                                           |
|----------------------------|-------------------------------------------|
| 月                          | 行事名・内容等                                   |
| 4                          | 月2回もったいない活動(資源ごみ回収) 睦小周囲除草作業              |
| 5                          | 1日研修旅行 就労施設支援センターの水やり(5~7月の土日祭朝夕)         |
| 6                          | 睦小周囲除草作業 児童館手伝い グリーン活動(小学校周囲の花植)          |
| 7                          | 除草作業 学校周囲金網張り替え 納涼祭 日帰り研修旅行               |
| 8                          | 地域パトロール 小学校周囲除草作業 夏の集い(暑気払い)              |
| 9                          | 就労施設支援センターの水やり(9~11月の土日祭朝夕) 児童館手伝い 六美会館清掃 |
| 10                         | 六美南・中・北3自治会による敬老の集い                       |
| 11                         | 六美北部ワンワン防災フェスティバル 3自治会文化祭                 |
| 12                         | 年末地域パトロール 交通、防犯講習会                        |
| 1                          | 3自治会による鏡開き                                |
| 2                          | 活動の反省会                                    |
| 3                          | 六美会館清掃 救難救助(AED)講習会                       |

| 自治会名 緑町2丁目 |                               |
|------------|-------------------------------|
| 月          | 行事名・内容等                       |
| 4          | 資源ごみ回収、ペットボトル整理(通年) 公園の清掃、園遊会 |
| 5          | 主要道路の清掃                       |
| 6          | 公園の清掃 旅行 友愛訪問                 |
| 7          | ミニスポーツ大会                      |
| 8          | 夏祭り ボーリング大会 ラジオ体操             |
| 9          | 公園の清掃 カーブミラー清掃 防火訓練 敬老の日お祝い   |
| 10         | スポレク大会 公園の清掃                  |
| 11         | 文化祭 芋煮会                       |
| 12         | 友愛訪問 公園の清掃                    |
| 1          | 新年会                           |
| 2          |                               |
| 3          |                               |

### 方策 3-3

壬生高等学校と連携し、参加可能な地域活動に関する情報を、高校を通して提供する。

壬生町において青少年による地域活動が活発なものとなるためには、壬生高等学校の理解と協力が不可欠であろう。そこで、壬生高等学校と連携し、青少年が参加可能な地域活動に関する情報を提供できるようにする。情報の提供の仕方は、中学生による地域活動の推進にあわせてプリント配付とする。これに加え、「中学校の時の友だちや別の高校に通う友だちも、ぜひ誘ってください」という一文を入れるようにする。このことにより、壬生高等学校に通う青少年はもちろんのこと、友だち関係をとおして多くの青少年に活動の機会についての情報が伝達され、多くの青少年が地域活動に参加できるようになると期待できる。

参加の申込は、学校経由ではなく、教育委員会生涯学習課宛のメールやFAXとするのはどうだろうか。保護者の承諾印がもらえないというデメリット（自分の子が地域に出て誰かのために役立ちたいと考え、それに取り組んでいる事実を、参加した子のすべての保護者に伝わらない）はあるものの、高校生になると携帯電話の所有率が9割を超えるという実態（ベネッセ教育総合研究所調べによる）から考えると、上記の方法も有効な手段の一つであると考えられる。

### 方策 3-4

町内の地域活動に参加したことがあり、主催者が連絡先を把握している青少年に対しては、直接通知を出すなどして、参加を促す。

今年のみぶっ子ドキドキサマーキャンプにおいて、昨年、中学校3年生の時に支援スタッフとして参加していた青少年にダイレクトメールを送り、地域活動についての情報を提供した。6人の青少年に対して情報を提供したところ、2名の青少年が参加してきてくれた。中学校の時には地域活動に参加できていたが、卒業してからその機会がなくなかなか参加できないでいる青少年たちにとって、この方法は有効な方法であることがつかめた結果となった。中学生の時に地域活動に取り組み、地域の大人と良好な関係を築いたり、誰かの役に立った喜びを感じたりできた青少年は、その後も「誰かのために」「自分にできることを」という気持ちを持ち続けていると捉えることができる結果である。

平成24年度から推進している中学生による地域活動では、さまざまな事情を抱えながらも地域に出て、誰かの役に立つ喜びを感じ、自分の存在の確かさについて地域で感じ取ることができている子がいる。その子たちは同年代の子と比較するとごく少数かもしれないが、そういった子にこそ、中学校を卒業してからふるさとである壬生町にソフトランディングできるような環境を大人は整えてあげべきだと考える。

ダイレクトメールによるレスポンスは悪いかもしれない。郵送というコストももちろんかかる。しかしながら、少数の「誰かの役に立ちたい」と思っている事情を抱えた青少年にとって、壬生町からの自分の名前が記された地域活動の案内は、自分の居場所を確かめ、自分は壬生町に必要とされているのだと実感することのできることであり、案内となると期待できる。

### 方策 3-5

地域活動についての情報を発信するため、生涯学習課のホームページの充実をはかる。

これまで、壬生町教育委員会事務局生涯学習課のホームページには、中学生による地域活動についての情報を掲載してきた。しかし、中学生による地域活動について、自治会ではあまり周知されていない事実や、青少年がホームページから情報を得ることを便利であると感じていない事実が明確になった。

この要因の一つに、ホームページに情報が掲載されていることが多くの人に伝わっていないということが考えられる。そこで、啓発リーフレットや参加募集チラシにホームページにも情報が掲載されていることを伝える内容を記述し、なるべく多くの青少年や大人がちょっとしたときにホームページを見てみようと思えるようにしていきたいと考える。また、中学校を卒業する直前にチラシを配付し、中学校を卒業した青少年にも参加可能な活動をホームページ上で随時紹介していくことを案内できるようにしたい。

さらに、ホームページ内の項目に、「青少年や中学生による地域活動」というタイトルをつけ、それらが中心に閲覧できるようなホームページ自体の変更も必要となってくるのではないだろうか。現在の生涯学習課のホームページはいろいろな領域の内容が時系列で並べられている状態である。その中から自分の興味や関心のある内容を探すには少々の時間を要する。このあたりの改善で、リーフレットやチラシを見て地域活動に興味や関心をもった青少年が、情報を収集しやすくなるのではないかと考える。

### 方策 3-6

地域活動についてのポスターやチラシを、青少年が目にしやすい場所（学校、駅、コンビニエンスストア、スーパーマーケット等）に掲示する。

青少年に地域活動に関する情報を提供する手段として、学校をとおして、過去に参加した子に直接郵送で、ホームページを利用してと、いくつかの方法を検討してきた。ここではポスターの有効性について考えていきたい。

学校をとおした通知や直接参加者への通知は、限られた人に対して呼びかけるにはとても適している。ホームページも自ら見ようとする地域活動に対して興味や関心の高い人には効果的である。それに対してポスターは、地域活動に興味や関心が今までなかった人も目にする可能性があるし、青少年以外の大人も見ることがある。より多くの人に向けて地域活動について伝えるためにはとてもよい方法であると考えられる。

しかし、ポスターは、関心がない人の気持ちを数秒の間に引きつけるだけの魅力がないといけない。情報過多にならず、いかに興味や関心を高められるかが大切となる。そのためにもキャッチコピーにこだわるなど、視覚的な効果を考慮しながら作成し、多くの人が集まったり、利用したりする場所に掲示すると効果的であると考えられる。

現状と課題〔調査研究の結果から〕

- ◇今後参加してみたいと思っている地域活動のうち，自分たちで何かを企画して実施できる行事と回答している生徒は，中学生で15.2%，高校生で15.0%いる。【2-6】p20
- ◇高校生で，今後参加してみたいと思っている地域活動のうち，同じ年代の青少年が集うサークル活動と回答している生徒が15.0%いる。【2-6】p20
- ◆高校生が今後参加してみたいと思っている地域活動のうち，公民館や生涯学習館主催の行事と回答している生徒の割合が2.5%と少ない。【2-6】p20

さまざまな世代との交流を望んでいる人が，青少年，中学生，保護者，自治会などの地域団体に多数存在していることが，今回の調査を通して明らかになった。このことから，それらの人たちの交流の拠点となる場所を整備していくことが大切である。拠点の一つとして期待できるのが公民館であると考えられる。さまざまなニーズに対応できる空間を保持している公民館の機能を有効に活用できるよう，具体的な方法を探っていくことが必要となるであろう。

一方で青少年や中学生は，公民館や学習館での行事等に魅力を感じているとはいえない結果も出ている。次代を担う青少年が公民館を利用することで，そこに青少年同士の交流が生まれ，将来のまちづくりに取り組むための仲間との出会いの場になる可能性もある。

方策 4-1

地域活動に参加している中学生や青少年，またそれを受け入れ支える大人たちが，ゆるやかにつながることができる仲間づくりを，公民館で実施する。

中学校でともに地域活動に参加した青少年が同窓会を開いたり，青少年にもできる地域活動の企画会議を開いたりするなど，青少年の出会いの場として公民館を利用する。地域活動に参加している中学生と青少年の親睦会を行うなど，各世代がゆるやかにつながる関係づくりを公民館で実施する。そこでの出会いを，近い将来，ともに手を携えてまちづくりにかかわるであろう仲間づくりにつなげる。



#### 方策 4-2

青少年が興味・関心をもちそうな講座や催しを公民館で開催し、青少年にとって公民館を身近なものにする。

公民館のよさを知ってもらうには、まず公民館に人が集まる必要があるであろう。そこで、青少年に焦点を当てた講座や催しを開催し、青少年が公民館に集まりやすい環境を整備する。

青少年や中学生から寄せられた地域活動を企画するとしたらアイデアの中に、公民館のもつ文化的な側面を活用する内容がいくつか見られた。具体的に挙げると、美術作品を展示したり、音楽に関する発表会を開催したりすることである。現在も学校の部活動単位で、吹奏楽の演奏や絵画の展示などで、公民館の機能を活用している様子が見られる。このような機会を地域の大人たちが設けられるようにし、青少年が公民館事業に参加できるようにしていけるとよいのではないだろうか。

#### 方策 4-3

地域活動に興味のある青少年を集め、公民館を会場にやりたいことを募り、運営できるようにする。

場所ありきになってしまうが、青少年の地域活動が「参加」から「参画」へと高められるよう、公民館を舞台として青少年の考えが反映された催しを実現できる機会を設けられるようにする。地域活動に興味がある青少年同士が、地域のためになることを、それぞれの意見を認め合いながら実現に向けて話し合える機会や、試行錯誤をくり返しながら運営に取り組む経験は、仲間の存在の大切さを知るよい場となるであろうし、自分の存在が価値あるものと味わえる場となるとも考えられる。

#### 方策 4-4

青少年の地域活動に関する集まりでは減免制度が適用できるようにする。

青少年が気軽に公民館を利用できるよう利用料金を無料にするため、減免制度を定めた公民館利用条例や施行規則等を見直すが必要になってくる。また、青少年とともに地域活動のための話し合いに臨む地域住民の利用金も無料にするなど減免制度を充実させていく。